



医療福祉相談員を紹介します！

こども病院の2階に家族支援・地域医療連携部があります。

お子さまとご家族が安心して治療や療養に専念できるように、生活上の様々な心配ごとについて問題解決のお手伝いをしています。スタッフは医師、看護師、そして私たち医療福祉相談員2名が常駐しています。

医療福祉相談員はご存じですか？医療機関によって呼び名も様々で、MSW、ソーシャルワーカー、相談員と呼ばれています。医療機関の中にある福祉の専門職です。医療福祉相談員の仕事の内容も様々です。通院や入院時に医療費のことで心配になったことはありませんか？福祉制度や利用できるサービスについて知りたいと思ったことはありませんか？心配ごとがあるけれど、どうしていいかわからない、そんな時にご相談をお受けし、必要なサポートを行っています。

ご相談の中で多いのは、医療費の助成制度や福祉のサービスについてのご相談です。実際、多様な制度があり、複雑で分かりにくく、お子さまの病状やお住まいの地域によって受けられる助成や利用できるサポートが変わります。



退院される場合は、お子さまの病状やご家族の生活スタイルに合わせて、少しでもご希望に添えるように面談を重ねます。

安心して自宅で過ごすことができるようなサービスの利用に向けて資源を選択し、適切な制度やサポートに結びつけることができるように調整を行っています。また、困っているけれど「どこに相談すればいいのかわからない」といったご相談もよく伺います。お話しを伺うことで心配ごとが軽くなることもあるかもしれません。ご相談内容によって、他の専門職員にお繋ぎしたり、地域の医療機関や専門機関をご案内したり、行政機関、教育機関との連携も行っています。困ったときにはお気軽にご相談ください。



Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

昨年度末はコロナウイルスで世界中が大混乱でした。この「げんきカエル」がお手元に届く頃には収束している事を願うばかりです。さて、新年度が始まり、こども病院も今年で創立50周年を迎えます。本年度も本院の取り組みや頑張っている子どもたちの様子などをお伝え出来ればと思っています。

委員長：大津雅秀
副委員長：松本奈美
委員：深江登志子 西森玲治
貝藤裕史 染谷真紀
河本和泉 笠木憲一
井口秀子 橋本恵美
時 克志 磯元啓吾
森 泰隆 辛 浩一

げんきカエル



令和2年(2020) 4月1日

食事を通して母と子の笑顔を紡ぐ

栄養管理部 鳥井 隆志

栄養管理部は、医師を中心としたチーム医療の一翼を担う部門として、患者さんの個々の症状に応じた適切な治療食の提供と、栄養食事指導を通して病気の治療に貢献することを目的に運営しています。

病院給食は、1日3食・365日休むことなく提供するとともに、衛生法規を遵守した厳しい衛生管理も求められます。そのため、患者さんに安全・安心で美味しく病院食を食べていただけるよう、管理栄養士と調理師が一丸となって食事の質と患者サービスの向上に努めています。最近の取り組みとしては、産科病棟における「ねぎらい膳」の導入や小児病棟における「食育イベント」の開催があります。

「ねぎらい膳」は当院でお産を終えられた皆様にお疲れ様の気持ちを込めてささやかですが特別なお料理を提供させていただいています。お産で疲れたところや体を癒やし、素敵な「笑顔」を紡ぐお手伝いのできるかと考えています。これからも産科病棟と連携しながら新しいメニュー展開を企画していきます。

「食育イベント」では当院の屋上庭園で栽培したさつまいもを使い、さつまいもクイズやさつまいもの食物繊維についてのお話しをした後、焼き芋や芋けんぴ、芋のペーストを参加者みんなで食べていただきました。長期の入院や治療を余儀なくされるお子さんの中には、食べることが進まなくなってしまうことがあります。そういったお子さんに少しでも「日常的」な雰囲気を感じていただくとともに、食べ物に興味を持っていただく機会を提供することが結果的に病院食の喫食率向上につながると信じてこう

いった取り組みを行なっています。「食食同源」というように、それぞれの患者さんに添った栄養管理や、治療のための食事提供は大変重要なことと考えています。チーム医療に貢献することはもとより、患者さんからのご意見やご質問に真摯に向き合い、治療効果の高い栄養指導やおいしい治療食提供を含めた、総合的な栄養管理を目指していますので、今後とも栄養管理部の活動を見守っていただきますようよろしくお願い申し上げます。





『成長』



白川 仁哉

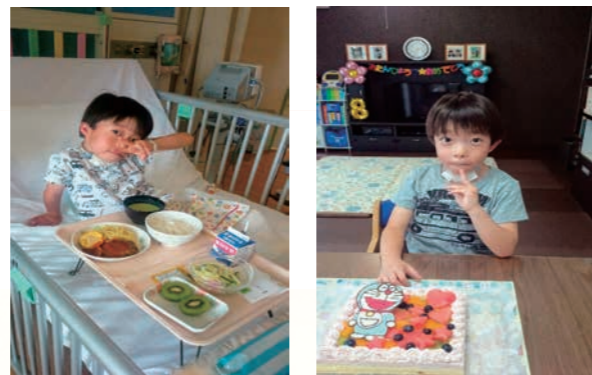
ぼくは4月で3年生になります。ぼくは生まれた時から色々な病気があって気管切開をしています。ぼくが行っている小学校は3年生だけで183人いる大きな学校です。みんなと一緒に運動会をしたり遠足に行ったり楽しいです。

白川 由佳

2011年7月22日、心臓と呼吸器を中心に色々な病気を抱え仁哉はこども病院で生まれました。かすかな泣き声を聞き、新生児室に運ばれそこから入院生活が始まりました。入院期間は私たちが思っているより長期になり、どうしたら仁哉が元気に過ごせるかと先生方が全力で考えて下さり、その都度看護師さんが家族に寄り添って下さいました。

同じように病気と闘うお友達やご家族ともたくさんの出会いがありました。不安な時は、たくさんの周りの方に支えられながら私たち家族は前に進むことができたと思っています。小学校入学にあたり仁哉は気管切開している医療ケア児なので、3才の頃から主治医や教育委員会の先生に相談し始め、準備をしつつ、地域の小学校に「病弱児クラス」を新設してもらい、入学することができました。仁哉の住んでいる市では前例のないことだったので、指導医となって全面的にバック

アップして下さる先生方や、受け入れて下さった学校関係者の方々と素敵な出会いがあったからこそ実現されたことだと思っています。足の手術で入院したり、体調を崩して入院したりすることはまだあるので、普段の生活で気をつけねばならない点がありますが、病気とうまく付き合いながらもランドセルを背負って同年代のお友達と一緒に学校生活を送っている姿を眩しくみています。そんな仁哉の姿をみていると、子どもの生命力の強さは計り知れないと感じます。これから先その都度直面する悩みも出てくるかと思いますが、たくさんの周りの方に支えられ今があることを忘れずに仁哉らしく生きていって欲しいと思っています。



ひと時の幸せをありがとう～カエルの音楽隊～



私たち『カエルの音楽隊』は、病院内で働いている医師や看護師・音楽療法士など音楽好きの多職種で結成されており、入院している子どもたちや家族に笑顔と音楽を届けるために、12月19日に多病棟で音楽会を開催し、♪ジングルベル♪赤鼻のトナカイ♪もろびとこぞりての3曲を、キーボード・ギター・トロンボーン・カホン・アルトリコーダー・鍵盤ハーモニカなどさまざまな楽器で生演奏を行いました。新生児病棟では癒しを感じてもらうためにオルゴールのような演奏を行い、幼児期や学童期の子どもたちがいる病棟では演奏終了後に、音楽を実際に間近で感じてもらうように楽器を触ってもらう時間を設けることで、たくさんの笑顔や反応がありました。

『カエルの音楽隊』の活動は音楽を通して、スタッフから子どもたちへ、そして子どもたちの笑顔がスタッフへと互いに力となり笑顔が溢れる素敵な時間を共有することができました。

今回、音楽会を聴いてくださった皆様、そして音楽会開催を支援して下さった病院内の全スタッフの皆様、ひと時の幸せな時間に協力頂き、誠にありがとうございました。今後も、『カエルの音楽隊』は、1人でも多くの子どもたちに音楽と笑顔を届けようと思っております。音楽会開催の際は、気になる楽器に触れ音楽と一緒に奏でましょう。是非参加してください。

「素敵なクリスマスの音楽をありがとうございました。長く入院していて久しぶりの刺激でとても楽しませて頂きました。または非このようなイベントがあると嬉しいです。」
産科病棟

「綺麗な演奏を聴かせて頂きありがとうございました。優しい音と綺麗なハーモニーに自然と涙がこぼれました。」
新生児病棟

「演奏が終わった後、楽しかったー！と子どもが転げて笑っていました。」
一般病棟

「毎日同じことの繰り返し、長期の入院生活の中でHAPPYになったひと時でした。」
産科病棟

「いろいろな楽器を演奏していただき、楽しい気分になりました。入院して学校に行けない分、楽しい気持ちになれてよかったです。手術頑張ります。」
一般病棟

音楽隊ありがとう。手術がんばります。

